

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 57 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時： 2022 年 11 月 10 日 (木) 9 時 00 分～11 時 00 分

2. 場所： WEB 会議 (Webex を使用)

3. 出席者 (順不同、敬称略)

(出席委員) 柳原主査、新崎幹事、岩崎、上田、梅原、柏木、小松原、坂下、竹腰、中瀬、鈴木、丸、山本、横田 (14 名)

(欠席委員) 武部副主査、佐々木 (2 名)

(常時参加者) 出雲、松本、満田、古田、森本、前田、山本、山田、宮田、小野 (10 名)

(欠席常時参加者) 土田 (1 名)

4. 配付資料

F9Ph2SC57-1	第 56 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録 (案)
F9Ph2SC57-2	専門部会・分科会人事シート LLW 廃棄体製作・管理分科会
F9Ph2SC57-3-1	L2 廃棄体製作・検査標準の標準化の現状と分科会審議対象となる主な改訂内容
F9Ph2SC57-3-2	附属書 I (規定) - 廃棄体の容器の仕様 (大型角型容器)
F9Ph2SC57-3-3	附属書 J (参考) - 大型角型容器形態の廃棄体強度の評価結果
F9Ph2SC57-3-4	附属書 L (参考) - 廃棄体に付ける標識及び表示の例
F9Ph2SC57-3-5	標準本体
F9Ph2SC57-4-1	浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XX-ドラム缶形態 編 - 誤記等修正について
F9Ph2SC57-4-2	浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XX-ドラム缶形態 編 - 新旧比較表
F9Ph2SC57-4-3	浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:20XX-ドラム缶形態 編 - 附属書 A~L
F9Ph2SC57-5	2022 年度 倫理教育資料の利用について

5. 議事

(1) 出席者の確認

新崎幹事から、分科会成立に必要な委員数 (11 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 人事について

新崎幹事から、新崎幹事、鈴木委員の委員への選任、出雲常時参加者、山本常時参加者の登録についてメールで事前確認を受け承認された旨の報告があり、本分科会でも再確認された。新たに、前田常時参加者の登録が承認された。

(3) 前回議事録案の確認

新崎幹事から、前回の分科会終了後に事前確認をお願いしていた前回議事録案について、一部

記載の修正（用語の適正化）があった旨紹介され、追加コメント無く承認された。

（４）大型角型容器形態編標準案の確認

柏木委員から、資料 3-1～5 に基づき、2022 年 4 月に発行された廃棄体強度に関する解析結果の報告書の最新知見の反映結果について説明があった。質疑は以下のとおり。

- ・ I.1 構造概要 “落し蓋構造”について表現は適切か。
 - “嵌め合い構造”か“落し蓋構造”か、電中研殿にて確認してもらったところ、業界内での使用状況を踏まえ、“落し蓋構造”のほうが適切と判断した。
- ・ I.4.6 仕上げ “その仕様は、受渡当事者間の協定による”ではわかりにくいので補足説明が必要では。
 - 仕様については今後決まってくるところもあり、標準としては、これ以上の詳細までは踏み込まないこととし、標準に記載された仕上げ要件を満足するような仕様で協定を結んでもらいたいとの趣旨で、このような表現としている。なお、JIS の中でも“これ以上の詳細までは踏み込まない”としたい場合に、このような表現が使われている。
 - この表現では言いたいことが曖昧で分かりにくいのではないか。
 - 最後の解説のところで、補足説明していただけるとわかりよいのでは。
 - 解説のところに補足説明を追記しており、次回の分科会で紹介したい。
- ・ J.2.3.3.1 荷重条件 廃棄体 4 段積載を条件としており、荷重条件は 3 段分がいいところ、保守的に 4 段で評価する理由は。
 - 他研究成果について、その内容が適切であれば、標準への引用は問題ないと考えている。
 - “保守的すぎる評価”という表現はいかがなものかと思われる。表現の仕方を工夫すべき。
 - 埋設時にモルタル等が上に載ることで荷重条件が大きくなるのでは。
 - 充填層の高さ（1.5m）に相当する充填材による圧力が容器の外面に等分布荷重としてかかることを想定済みである。
 - 標準としては説明がほしい。
- ・ J.3.3 落下衝撃強度の解析結果 “衝突点の隅金具を中心に 10 %を超える相当塑性ひずみが集中している”ことに関して、これに関する直接的な基準はないのか。また、このうち“10 %を超える相当塑性ひずみ”について、具体的な数値を記載する必要はないのか。
 - 図 J.7 をみると、最大でも 10%となっていて、記載が間違っており、修正する。
 - 図 J.8 でボルトのひずみだけが基準となるのか。
 - 再確認させてもらう。

（５）ドラム缶形態編標準案の発行に係る協議

新崎幹事から、資料 4-1、4-2 に基づき、出典の記載に係る誤記等修正、また、学会事務局が進めている転載許諾の手続き状況について説明があった。質疑は以下のとおり。

- ・ 転載許諾手続きでコメントがあつて修正を行った場合、標準委員会を通さずに、発行に進めるのか。
 - エディトリアルな修正であっても、専門部会、標準委員会への報告が必要となっている。

→どのような工程になりそうか。

→転載許諾手続きがいつ終わるかによって決まってくるので、現状では工程がどの程度遅れるか、わからない。

→標準の発行番号は学会事務局から連絡がきているのか。角型標準への記載が必要である。

→転載許諾手続きが終わっていない状況でもあり、まだ、学会事務局からの通知はない。

- ・新旧比較表 p 3 と p 4 3 つ目の出典の発行年が一方は 2020 年 1 月となっており、もう一方は令和 3 年 6 月となっている。

→図表と参考文献の一覧で、同じ出典であれば、その出典名は合わせることにしており、合っていないのは修正ミスである。出典名があっているかどうか全体を再チェックする。

(6) 2022 年度倫理教育の受講について

新崎幹事から、資料 5 に基づき、2022 年度倫理教育 12/9 までに受講し受講結果を報告するよう依頼があった。

6. 次回の予定

新崎幹事から、大型角型容器形態編標準案の改定（資料 3-1 参照）等に向けて、年内（12/12 の週か翌週）に開催したいと説明があった。

以 上